

教科用図書調査研究報告書（総括）

種目名	技術・家庭（技術分野）
-----	-------------

発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①基礎的な用語のうち、重要語句はゴシック体で表記している。</p> <p>②内容A～Cの第3章及び内容Dの第4章の冒頭で「技術の最適化」という項目があり、これまでの振り返り、自分の問題解決と社会における問題解決について考えることを促す生徒のつぶやき等を記載している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③技術分野のガイダンス「技術の見方・考え方」において、製品が、社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性の面から折り合いを付け、最適化されていることに気付くための漫画を掲載している。</p> <p>④各内容の第2章にある実習例を「問題解決例」として提示している。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤各内容とも、項目ごとに「目標」「学習課題」を示しており、目標の後に課題に向かうための導入発問が記載されている。</p> <p>⑥「未来のtechnology」において、これまでの学習を踏まえ、「技術の評価、選択、運用（技術ガバナンス）」「技術の改良、応用（技術イノベーション）」について考えさせるためのワークシートがある。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦巻頭に「技術分野のガイダンス」編があり、各内容を、1編「材料と加工の技術」2編「生物育成の技術」3編「エネルギー変換の技術」4編「情報の技術」とし、1編から3編は1章から3章、4編は1章から4章で構成している。また、3年生で取り組む問題解決として「統合的な問題解決」編がある。</p> <p>⑧各内容と問題発見のためのテーマをあげ、製作例などで解決への手順を示すとともに、「もっと問題解決」でさらに問題解決例をあげている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨技術・家庭科や他の教科に関連する内容があるところに「リンクマーク」を付けている。</p> <p>⑩「デジタルコンテンツを活用しよう」のページがあり、デジタルコンテンツの一覧表示用の二次元コードが示されているとともに、全ての</p>

	<p>ページに「D マーク」と二次元コードが示され、関連のデジタルコンテンツを表示できる。</p>
<p>教 図</p>	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①重要語句が青色のゴシック体で表記されている。</p> <p>②内容 A～C の第3章及び内容 C 第4章の冒頭で「技術のプラス面とマイナス面」という項目で、これまでの振り返り、世の中の技術の役割や技術が与える影響、社会におけるプラス面とマイナス面を見極めたりすることを促す記述や生徒のつぶやきが掲載されている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③ガイダンス「技術の問題解決ってなに？」において、「①立場によって見つかる問題が異なる」「②見方・考え方によって、プラス・マイナスが異なる」「③立場や見方・考え方によって、解決方法が異なる」という視点から技術の最適化に気付けるような記載がある。</p> <p>④各内容の第1章の末において、技術にこめられた工夫について調べる項目があり、具体的な例を上げている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤各内容とも、項目ごとに「めあて」が示され、関連するキーワードが記載されている。</p> <p>⑥「やってみよう」において、これまで学習を踏まえ、技術の上手な活用法や新しく開発したい技術、これから技術とどのように向き合っていくのかを考えるためのワークシートがある。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦巻頭に「ガイダンス」があり、各内容を、A編「材料と加工の技術」B編「生物育成の技術」C編「エネルギー変換の技術」D編「情報の技術」とし、A編からC編は1章から3章、D編は1章から4章で構成され、E編として「夢をかなえる技術」が掲載してある。また、各内容での用具の使用法や作業方法について「スキルアシスト」という別冊がある。</p> <p>⑧各内容とも「実習（や見学）の安全な進め方を知ろう」で安全についての記述があるとともに、「プチ問題解決にチャレンジ！」で簡単にできる問題解決の例をあげ、さらに「身近な問題を解決してみよう」で問題解決の具体的な方法について実習例が示されている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨SDGs に関する内容には、関連する持続可能な開発目標のマークが示されている。</p>

	<p>⑩デジタルコンテンツがある内容については、右下ページに二次元コードの表示がある。</p>
開隆堂	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①基本的な重要語句をゴシック体で表している。</p> <p>②内容A～Dの3で各内容における学習を振り返らせたり、技術と社会とのつながりを考えさせたりするための記述や図等を掲載されている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③ガイダンス「技術の見方・考え方」において「願いや要求」を「社会からの要求」「安全性」「経済性」「環境負荷」とし、それらを科学の考え方を活用することにより最適化することを、具体的な製品の仕組みを調べることで理解させる記述がある。</p> <p>④各内容の第1章の末において、「技術の見方・考え方で既存の製品を読み解こう」という学習課題があり、具体的な例を上げている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤各内容とも、項目ごとに「学習の目標」と「学習課題」が示されている。</p> <p>⑥「やってみよう」において、新しい技術について調べるための記述がある。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦巻頭にG「ガイダンス」があり、各内容をA「材料と加工の技術」B「生物育成の技術」C「エネルギー変換の技術」D「情報の技術」とし、各編とも1から3で構成され、中学校の3年間の問題解決の振り返りや統合実習として最後に「技術分野の出口」がある。</p> <p>⑧各内容とも実習例をあげ、その実習例でも「問題の発見、課題設定→設計・製作（制作）→評価・改善」といった問題解決の進め方が記述されているとともに、実習例によって個別に必要な手順が具体的に写真等で示されている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨各内容の初めに「小学校や他教科とのつながり」として、関連する学習内容が示してある。また、他教科や小学校での学習とのかかわりがあるところに「他教科」「小学校」マークを示し、他の学習項目や家庭分野とのかかわりがあるところをマークで示している。</p> <p>⑩目次ページに、デジタルコンテンツの一覧を表示するための二次元コードがあるとともに、ほぼ全てのページにある二次元コードにより、関連のデジタルコンテンツを表示できる。</p>